

第5章

高エネルギー研究所史料室の沿革と現状

高橋 嘉右 高エネルギー加速器研究機構 名誉教授

1. 高エネルギー研究所史料室の沿革

高エネルギー研究所史料室は下記の経緯で設立されました。今日は、その経緯と現在の活動についてご紹介したいと思います。

1. 高エネ研アーカイブズ作業部会の設置 (KEK Archives Working Group)
 - ・ 2002年4月：作業部会の提案と発足
 - ・ 作業部会の活動記録
 - 第1回作業部会 (2002年4月)～第14回作業部会 (2006年3月)
 - ・ 高エネ研史料室 (仮称) の作業計画の検討立案、史料収集整理作業への参加
2. 高エネ研史料室の設置と活動の現況
 - ・ 高エネ研関連史料の収集・整理のため：
 - 機構内管理局の下に史料室 (仮称) を設置
 - 活動開始：2002年4月～2004年3月末日
 - ・ 大学共同利用機関法人化に伴い、機構内国際社会連携部の下に史料室を設置 (2004年4月)、現在に至る

1.1. アーカイブズ作業部会の設置と活動

アメリカのナショナル・アーカイブズに What is past is prologue という有名な言葉があります。まさに、アーカイブズを学ぶことは、これまでの自分たちの人生の来し方を学んで将来を考えることにほかなりません。その言葉に感動して帰国したら、菅原先生から、高エネ研の資料整理の必要性を指摘され、OBの私が担当することになりました。

そこで2001年末の帰国後、2002年1月から、ときどき高エネ研に出向いてアーカイブズのワーキンググループの構築から手がけることにしました。その際、UCLA のシャロン・トラウィークさんが高エネ研に来ておられたので、相談にのっていただきながら作業を進めました。

まずそういう問題に興味をもっていそうな人に集まってもらい、2002年4月に作業部会を設置しました。その目的は、高エネ研の法人化という時代の転換点をふまえ、旧高エネルギー物理学研究所、旧東京大原子核研究所等におけるわが国の高エネルギー物理学及び高エネルギー加速器の研究に関わる歴史的資料の収集整理を行うことにありました。

作業部会の主な作業は下記のとおりです。

- ・旧高エネルギー物理学研究所及び旧東京大原子核研究所に関する歴史的資料について調査・収集・整理を行う。
- ・わが国における高エネルギー物理学及び高エネルギー加速器の研究に関わる歴史的資料について調査・収集・整理を行う。
- ・上記の歴史的資料に基づく関連の研究を行う。または、そのような研究の援助を行う。
- ・上記の作業を国際的視野に立って行う。それには国際的協力体制のもとで、資料整理の方法、具体的事例についての情報交換、資料の調査、整理、研究をする。

1.2. 史料室の設置と活動理念

高エネ研は原子核研究所を母体に設立されていますが、幸い資料が散逸

する前に機構化されたため、原子核研究所も含めて歴史的に重要な資料をきちんと収集、整理しておこうと考えました。また高エネ研は国際的な視野のもとに設立されていますので、当然のことながらそうした視野をふまえてアーカイブズに取り組んでいく必要があります。

21世紀はグローバルなアプローチが不可欠であることは言うまでもありません。国内で国際的な研究所をどうつくってきたかという記録を残すこと、しかもそれを国際的な連携のもとで進めていきたいと考えていましたので、そのために作業部会を設立したわけです。しかし作業部会を作っても、ボランティア的な活動だけでは不十分なので、機構長に依頼して史料室を設置し、作業部会のメンバーに、すでにリタイアした所員など研究所内外のメンバーを募り、さらに海外の専門家にもアドバイザー・スタッフとして参加していただいて、実際の作業を始めました。

なお、当初は機構内管理局の下に史料室(仮称)を設置し、2002年4月～2004年3月末日まで活動開始していましたが、大学共同利用機関法人化に伴い、機構内国際社会連携部の下に史料室を設置し(2004年4月)、現在に至っています(「史料室」の沿革については、すでに2005年の研究会で報告され、『共同利用機関の歴史とアーカイブズ2004』としてまとめられていますので、ここでは詳細は省略します)。

この活動を中心に担っていたのは高岩義信さんだったのですが、2006年4月に、短期大学から昇格した、つくば技術大学の教授に就任されたので、高エネ研としては大黒柱を失った状態で、総研大をはじめさまざまなところに史料室の活動のサポートをお願いしていきたいと思っています。

2. 史料室活動の現況と今後の展望

2.1. 活動の現況

次に、活動の現況を簡単に紹介し、今後の計画にもふれておきます。

1. 各種史料の収集・整理作業の現況

(a) KEK 評議員会議及び運営協議員会議・議事要録等の CD-ROM 化の作業

- (b)放射光実験施設協議会、ブースター利用施設委員会等関連研究施設委員会議事要録等の CD-ROM 化の作業
 - (c)その他機構関連資料等の CD-ROM 化の作業(核研関係、KEK 計算機センター委員会議事要録等)
 - (d)KEK 関連研究施設・設備等の写真史料の収集整理及び電子データ化
 - (e)同上写真データのフォーマットの整備とその検討
2. KEK 創設に係る関係者(所外・産業界を含む)のオーラルヒストリー収集(テープ・リライト作業を含む)
- (a)国内関係者
 - (b)在外関係者(外国人を含む)
3. アーカイブズ事業における国内及び海外との共同研究・リンケージの推進
- (a)総研大(葉山高等研究センター)との各種の共同研究及び研究協力作業の推進
 - (b)UCLA(米)等におけるアーカイブズ・グループとの共同研究・情報交換、ジョイント・ワークショップ等の開催
 - (c)その他の機関との共同研究・情報交換
4. 国内におけるアーカイブズの若手専門家の養成への協力
- ・アーカイブズに関する研究会の開催など
 - ・アーカイブズに関する国際共同研究への若手研究者の参加協力の推進
5. KEK 所内における“アーカイブズ事業”に対する理解協力の醸成
- ・アーカイブズの活用に関する所内規則などの整備
 - ・ウェブでの公開方法の検討
 - ・アーカイブズ・データの国際標準化への取組みの推進など

高エネ研の設立にあたり、文部省(当時)とどのように折衝してきたか、また運営協議会でどのような協議がなされてきたかを如実に物語るのは、

当時の議事要録などです。これをひもといってみると、青焼きのものなどもあり、まさに今の時点で残さなければならないものがほとんどです。現在、デジタル化する作業はほぼ終わっています。また、原子核研究所の史料もかなりそろっています。たとえば朝永博士が、田無市の市長、議長宛に原子核研究について説明し、研究所設置を要望した手紙も史料として残っています。

さらに、高エネ研としては、放射光実験施設、ブースター施設など巨大な実験装置があります。高エネルギー物理学にとっては非常に重要な役割を果たしたこれらの実験装置の記録を詳細に収集、保存することもきわめて重要です。特に、2006年3月で、初期の高エネ研の非常にメジャーな装置であった、12GeV陽子シンクロトロンがシャットダウンされたので、これまでの歴史を振り返った本を製作しました。

こういう出来事は、これからも起こるかもしれません。その意味で、これまで歩んできた道は、毎日アーカイブズを作り出していると言っても決して過言ではありません。これらの記録をきちんととり、フォーマット化することが非常に重要です。私も週に何度か研究所を訪れて、関連研究施設の写真の整理にあたっていますが、まだまだ途上です。なんとかかなりの記録ができてきましたので、今後は写真データのフォーマットを整理して、インターネット上で閲覧できるなどの工夫もしていきたいと考えています。

すでに故人の場合は残念ながら、手紙などで残すしかありませんが、生存者に話を聞くのも大事なアーカイブズ活動です。事実かどうかはわからないにしても、オーラルヒストリーをとることは非常に大切です。われわれの史料室でも、すでに10人を越えるオーラルヒストリーのコレクションがあります。さらにこうした大規模研究では、産業界との連携も非常に重要なので、産業界の人間も交えたオーラルヒストリーを実施していきたいと思っています。

2.2. 今後の展望と課題

われわれにとっての課題は、今後どのようにアーカイブズの成果を広めるか、またどのように公開し、活用していくかという問題です。そのためには、アーカイブズ事業における国内外の連携が大事です。総研大の協力、指導のもと、できるだけ国内の研究機関との横の連携もはかっていきたいと思ひますし、また UCLA(米)との共同研究は、学術振興会のプロジェクトとして2年間にわたり実施してきましたが、さらに続けていきたいと考えています。

日本にはまだ専門的なアーキビストはいないとされていますが、こうした活動を通じて、アーカイブズにおける若手専門家の養成に対する協力もできるだけしていきたいと思ひていまして、アーカイブズに関する研究会も総研大との協力のもとに開催しています。さらに UCLA など国際的な機関との連携による国際会議も実施する予定です。

高エネルギー研はやはり研究が主流であり、アーカイブズに関して人や資金を増やしてもらうのは難しいことではありますが、理解と協力をえるためにきちんとしたアカウンタビリティが求められると思ひます。

そういう意味で、今年度(2006年度)は KEK 史料室の事業に対する理解と協力を求めるための活動を展開しなくてはならないと考えています。具体的には、アーカイブズの活用に関する所内規則の整備などです。たとえば、ある関係者のオーラルヒストリーをとった場合、新聞社などから記事として掲載したいという要望があることも想定されます。ただ無闇に提出するわけにもいかないので、ウェブでの公開の仕方なども含め、所内のルールを統一する必要があります。

さらに写真データなどの国際標準化にも重点的に取り組んでいきたいと考えています。各研究所が作成したアーカイブズを並べて公開し、活用していただけるよう、これからも努力していくつもりです。